

特 別 決 議

2008年北京オリンピックに関する国際武術連盟への緊急提案

2003年1月25日

社団法人日本武術太極拳連盟第28回総会

武術を2008年北京オリンピックの正式種目にするために、国際武術連盟、中国オリンピック委員会の指導部および中国国家指導者の関係各位が真剣なご努力を傾注されていることにたいして、日本武術太極拳連盟の全会員は衷心より感謝と敬意を表すものであります。

昨年11月にメキシコシテイで開催された国際オリンピック委員会（IOC）第114回総会の決定とその後の諸状況を踏まえて、日本武術太極拳連盟第28回総会は下記の事項を特別決議し、国際武術連盟が可及的速やかに具体的な行動を起こすことを提案します。

1．IOC第114回総会の決定とその後の情況にたいする認識：

昨年11月のIOC理事会と第114回総会における協議と決定を通じて、今後のオリンピック実施競技問題は、実施規模に関する原則問題と既存種目の削減問題および新種目の加入問題が、複雑に影響し合い、単純な基準で解決することが困難な課題であることが示されました。今後は、既存種目と新規参入を希望する種目が互いに、オリンピック種目としてふさわしい要素と力量を備えているかどうかについて、競い合い、比べあう「競技間競争」が激化するものと考えられます。

昨年11月の段階で削減が検討された「野球」、「女子ソフトボール」、「近代五種」を始め、既存のオリンピック種目は、いずれもこの情況にたいして危機意識をもって真剣に改善の努力をすすめるはずであります。

私たちは、2008年北京オリンピックへの武術太極拳の正式競技種目化問題で、中国が開催国であること、中国がすぐれた国力と政治・外交力を備えていることに大きな期待を持っています。そして13億の中国の人々の一致した願望は大きなものがあります。

しかしながら、この問題はあくまでスポーツの次元で決定されることであります。私たちの武術がオリンピックスポーツとしてふさわしい要素と力量を備えていることを、2004年アテネ五輪での決定前までの残された期間に、関係各方面に強くアピールすることができなければなりません。

オリンピック種目化に関して、国際武術連盟の指導部と世界の武術界の友人が明確な戦略と共通の認識を持って、具体的な行動を緊急にすすめなければなりません。

2．戦略的にメダル数と種目を確定する：

現在、国際武術連盟が申請している8種目の套路種目は、第114回IOC総会での情況を踏まえて、現実的には今後、IOCとの対応のなかで合理的に整理することが求められる可能性が大きいと思われます。その際に、私たちは国際武術連盟が、過去の国際武術運動の実績と将来の発展の方向性をともに踏まえたうえでの合理的な決定を行っていただくことを強く希望します。日本武術太極拳連盟は、国際武術連盟がIOCとの対応のなかで、当面、「長拳三種総合」、「南拳三種総合」、「太極拳二種総合」で、男女6種目とすることを、追及していただくことを強く希望します。

現在のオリンピック種目28競技のなかで、アジアが発祥の競技は「柔道」と「テコンドー」の2競技だけで、いずれも格闘技種目であります。私たちは、武術が、哲学、医学、芸術、教育などの広範な分野で高度な東洋的文化の要素を全面的に備えているスポーツであることに、あらためて自信と誇りを持つべきであります。武術套路競技をオリンピックに導入することで、アジアから世界に、平和と健康に貢献するスポーツを加えることの歴史的な意義を強くアピールすべきであります。

この6種目からなる武術競技は、アジア地域のオリンピックと言うべきアジア競技大会にお

いて 1990 年の北京での第 11 回アジア競技大会から正式実施競技となり、昨年の韓国・釜山での第 14 回アジア競技大会まで連続 4 回も行われ、2006 年カタールで開催の第 15 回大会でも実施が予定されています。この実績を私たちは誇りに思います。

3 . 特別対策委員会の設置と暫定模擬套路の試行 :

1)特別対策委員会 ;

私たちは IOC と関係各方面に対する働きかけを強化するために、宣伝、外交、メディア、財政、技術などの各分野の活動を緊急に展開する必要があります。これらの諸活動を推進するために、国際武術連盟の指導下で、国際武術連盟、各大陸連盟、中国オリンピック委員会、北京オリンピック組織委員会および中国関係国家機関等が緊密に連携して行動するための「特別対策委員会」を早急に設置し、行動することを提案します。

2)暫定模擬套路の試行 :

国際武術連盟は IOC にたいして 2001 年 12 月 20 日付で、男女計 8 種目の套路競技を申請しました。申請した套路競技の内容は、オリンピック競技にふさわしい高度の技術と芸術性を備えたものとなるよう、国際武術連盟技術委員会と中国の武術専門機関によって研究されたものでありました。すなわち、各種目とも、3 段階の難度動作を含む自選套路を音楽とともに演技する内容でありました。

日本武術太極拳連盟は、国際武術連盟技術委員会と中国の武術専門機関ができるだけ早急に共同作業を行い、申請中の 8 種目のなかからの幾つかの種目を選定して、それらの種目の暫定模擬套路を策定し、技術資料としてビデオテープを作成することを提案します。

国際武術連盟が IOC に申請している競技の技術内容は、概要に留まっています。私たちは、これらの技術内容を、2004 年に申請が採用され、実施が決定した後にはじめて具体化するのでは、決定的に遅すぎると考えます。現在、具体的な技術内容を備えた資料がなければ、上述の「競技間競争」に勝ち残ることはできません。申請内容に沿った具体的な技術資料を、特に映像資料として作成することが、現在、宣伝工作をすすめるうえで不可欠であります。

4 . 具体的には下記の事項を提案し、要望するものであります。

- 1)申請している 8 種目のうち、数種目を選定して、A,B,C 難度を備えた模擬套路を、暫定的な試行案として、各種目に各 2 種類策定する。
- 2)各種目で 2 人の優秀選手に 2 種類の套路を、音楽付き自選套路として演技させる。2 人の選手の演技にたいして採点を行い、2 選手の得点の違いを審判基準に基づいて解説したビデオテープを作製する。
- 3)上記ビデオテープを、現在申請中の套路競技の技術内容として、IOC の専門家その他に配布して、宣伝工作を行う。国際武術連盟の会員に対しても、来るべきオリンピック競技の暫定的な試行案として配布し、会員国の意見や提案を受け入れる。国際連盟会員国は、この暫定試行案を参考にして、2008 年に向けて選手の養成と訓練を行うことができる。
- 4)今年 11 月にマカオで開催される「第 7 回世界武術選手権大会」の最終日には、これらの暫定模擬套路の演武と模擬採点を公開する。これにより、世界各国・地域から集う選手、コーチと関係者が、来るべきオリンピックの套路技術の方向性を理解し、選手養成の一助とする。
- 5)今年 7 月に東京で開催する「第 20 回全日本武術太極拳選手権大会」に、中国から優秀選手団を招き、大会最終日にこれらの暫定模擬套路の公開演武を行っていただく。

私たちの以上の提案と要望を、よろしくご検討いただき、早急に具体的な対策をとって下さるようお願い申し上げます。

日本連盟は、昨年 9 月に、IOC 会長に向けた署名と国際武術連盟への募金の緊急行動を行いました。2008 年北京オリンピックでの武術の正式競技種目実現のために、日本連盟の全会員は国際武術連盟にたいして、今後もできる限りの努力と協力を惜しまないことを申し添えます。

以上